

「核ごみ処分場」問題について

現在、世界中で環境問題は重要視されています。

積丹観光協会は、先人たちが守り残した美しい自然、各地の文化、山・海の食を求め、多くの人々が安心して訪れ、癒やされ、二度三度訪れていただき、愛される観光地を一步一步築いてきました。

世界で最も危険なゴミである「核ごみ」を、寿都町・神恵内村が「処分場」にと手を挙げる、この異常事態に驚いています。

この度の寿都町、神恵内村の「核ごみ処分場」問題は、小樽、ニセコ、積丹エリアはもとより、今後の北海道観光への悪影響は重大です。とくに神恵内村は隣接町村であり、この地域は泊原子力発電所もあり「核ごみ処分場」までもこの後志地域に作ってしまうと、後志は「核を肯定する地域」という印象が強くなり、仮に処分場となった場合の風評被害は免れません。

寿都町・神恵内村は隣接町村であり、過疎高齢化、経済的に抱える悩み等は、積丹町も同じです。現在過疎化で苦しむ地域に仮に「核ごみ処分場」が完成してしまった場合、過疎化を更に加速させるなどの悪影響は明らかです。

昨年、積丹半島に訪れた観光客のうち約4割がインバウンドでした。積丹町と寿都町、神恵内村が別の地域であっても、海外から見たときの印象は「北海道」も「積丹半島」も同じエリアでしかなく、町村が分かれているという事実は、あまり意味のないことです。

これまで積み重ねてきた、国内はもとより海外へのPR等、成果が見えてきた過程の中、「核ごみ処分場」に手を上げることは本当に今必要なのか、疑問を感じます。

「日本中の核ごみが集まるふるさと」を、未来を担う若い世代に残していくことが、我々の役目ではないはずですが。

積丹観光協会は文献調査に応募表明することに対し
全会一致で反対申し上げます。

令和2年10月6日

一般社団法人積丹観光協会
会長 佐藤勝次